

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 032	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名 浄化槽への負荷がかからない効果的な畜舎消毒方法	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 家畜の疾病対策のため、畜舎の洗浄・消毒について指導しているところであるが、浄化槽を使用している生産者から、消毒薬の使用は浄化槽に負荷がかかるため対応に苦慮しているという声の一部が上がっている。 一方で、家畜伝染病予防法の規定による飼養衛生管理基準においては、「畜舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基づき定期的に清掃及び消毒すること」とあり、法律上、定期的な清掃及び消毒の実施が必須であり、生産者は具体的に清掃及び消毒の方法、使用する消毒薬名及び希釈倍数についてもマニュアルを作成することとなっている。 浄化槽への負荷が少ない消毒薬や消毒方法について、現場への活用につながる具体的な指標の調査を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター      ③水産技術センター      ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施   ②実施中   ③継続検討   ④実施済   ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応   ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	以前より指導機関や生産者等から、畜舎における消毒薬の使用が浄化槽の活性汚泥や浄化機能に及ぼす影響について質問を受けています。消毒薬は、ふん便などの有機物の存在下では薬効が低下することが明らかになっており、家畜用浄化槽の場合、畜舎から排出された汚水を貯留する汚水槽があるため、畜舎の消毒薬は、ここで汚水中の有機物と混合し、薬効がなくなります。 ただし、農場によって消毒頻度や消毒薬の使用量が異なるため、心配な農家については個別に現地対応します。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考	参考文献1：「畜産分野の消毒ハンドブック」（平成31年2月）公益社団法人中央畜産会 <a href="https://jlia.lin.gr.jp/eiseis/pdf/disinfect_handbook.pdf">https://jlia.lin.gr.jp/eiseis/pdf/disinfect_handbook.pdf</a>		